

社会貢献



社会貢献

基本的な考え方

いすゞのパーパスである地球の「運ぶ」を創造するため、カーボンニュートラルへの対応や進化する物流への貢献の取り組みを進めます。また、国や地域の文化を尊重し、事業活動を通じて地域や社会に参画することで社会課題の解決に貢献するため下記の取り組みを進めます。

社会貢献における取り組みテーマ

1. 地球環境維持と経済発展の両立

製造工程の環境負荷低減や循環型ビジネスに取り組むほか、先進環境性能を備えた製品開発、効率的な輸送への貢献等、脱炭素化に向けたイノベーションの創出を通して、環境性と経済性を両立する製品・サービスを提供します。

2. 安心・安全・効率的に人・物を運べる社会の実現

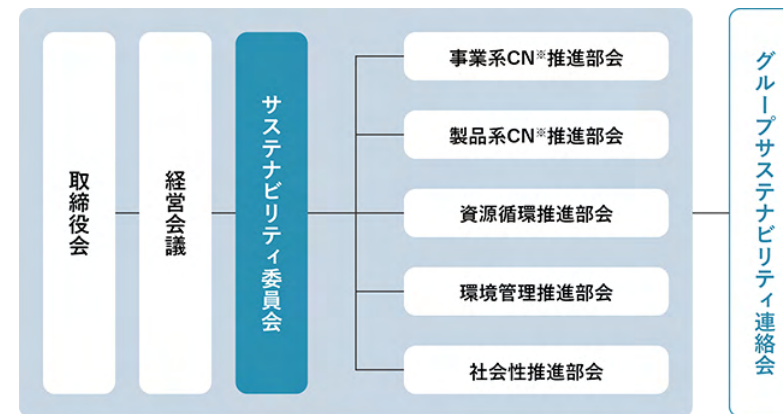
信頼できるパートナーとの協業を活用しながら、自動運転やコネクテッド技術におけるイノベーションを創出します。さらにアフターサービス網の強化や先進安全性能を備えた製品供給にも引き続き取り組み、輸送業界を支える製品・サービスを提供します。

3. 地域社会との調和

国や地域の文化を尊重し、事業活動を通して地域や社会に参画し、調和を図ることで、地域の一員として信頼されるとともに、地域社会の発展に貢献するための活動に取り組みます。

マネジメント体制

いすゞでは社会課題に向けた議論や取り組みを行うため「サステナビリティ委員会」を頂点とする社会性推進部会を設置しています。社会性推進部会には、全部門の代表者が参画し、ESG評価動向やサステナビリティ経営課題を検討し、いすゞの社会性評価向上につながる活動を推進しています。



※CN:カーボンニュートラル

従業員参加を促す仕組み

全社メールやポスターを使って従業員参加を促すとともに、活動結果を社内報や社内サイトおよびいすゞのホームページなどで社内外に発信しています。

外部イニシアチブの支持や業界団体との連携

外部イニシアチブの支持や業界団体との連携

各団体と連携・協力しながら従業員参加型の活動を推進しています。

- 国際協力NGOワールド・ビジョン
- 公益財団法人オイスカ
- 特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
- 認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン

社会貢献

取り組み

地域社会との調和

いすゞプラザ

いすゞプラザ開設の目的

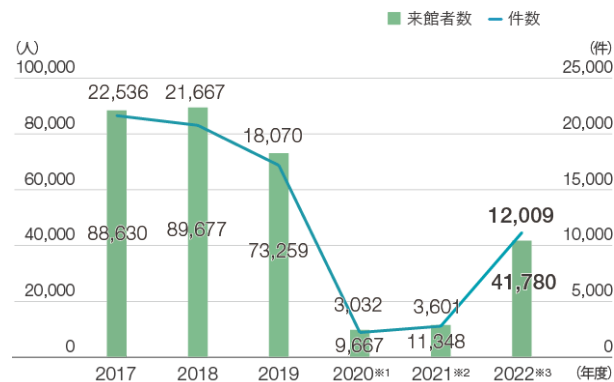
2017年4月、いすゞ創立80周年記念事業の一環として、藤沢工場の接地にいすゞプラザを開館しました。いすゞプラザは、「運ぶ」を支えるいすゞ、いすゞのくるまづくり、いすゞの歴史の3つのゾーンで構成しており、いすゞを知っていただき、より身近に感じていただけるような施設を目指しています。

また、各種イベントやものづくりワークショップなどを開催し、地域の皆様とのコミュニティをつなぐ施設としての役割も果たしていきます。



いすゞプラザ

来館者実績



※1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館（約56カ月）と予約システムによる来館者制限を実施

※2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館（約60カ月）と予約システムによる来館者制限を実施

※3 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う予約システムによる来館者制限を実施

展示と活動の方向性

展示やイベントにおいて、いすゞが行っている社会貢献活動を積極的に紹介しています。これによりステークホルダーの皆様へ、いすゞが製品・サービスを通じて行っている社会貢献や、社会貢献活動そのものにご理解をいただくとともに、それに従事するいすゞグループ従業員のモチベーション向上につなげ、さらなる社会貢献活動の推進を図っています。今後は、豊かな暮らしを支えるトラックの重要性や社会課題解決に向けたいすゞの取り組みなどを紹介していく予定です。

地域社会との連携

いすゞは2021年度から藤沢市と協働で「火災予防の啓発、消防業務の認知」活動を推進しています。2022年度は藤沢市より寄贈いただいた「救助工作車III型（シャシ：いすゞ製）」の常設展示を行いました。本展示では2つのモニターも併設し、藤沢市消防局の目的や局員の想い、いすゞのものづくりを、より多くの市民やステークホルダーにご覧いただいています。

また、日頃災害現場で業務にあたる消防隊員が説明と実践を行う「親子消防イベント」を開催。参加者に、座学やWEBを活用したバーチャル消防署見学、はしご車の乗車体験や高度救助隊による救助のデモンストレーションなどを体験いただきました。参加者からは、消防業務への高い関心と理解、活動に対する期待が寄せられました。この活動は今後も継続的に開催し、地域社会の発展に貢献していきます。



救助工作車



親子消防イベントの様子

社会貢献

社会科見学の取り組み

いすゞでは長年にわたり、小学5年生への教育支援のひとつとして、自動車産業へのより深い理解のために藤沢工場見学を実施しています。2017年4月のいすゞプラザ開館からは藤沢工場とプラザをセットにした見学コースを新設。工場では働く人の想いや製造工程におけるものづくりの工夫について、プラザでは商用車の役割や環境、安全について、それぞれ体験・理解いただく学びの場を提供しています。

バーチャル社会科見学の提供と目的

コロナ禍でも多くの子どもたちに自動車産業を学ぶ機会を提供したいとの想いから、WEBを活用した「いすゞバーチャル社会科見学 (IVSST※)」を教育委員会や小学校との連携で製作し、2021年よりトライアル展開 (58校) しています。2022年度は内容・見せ方など、改良を重ねて72校/6,527人の生徒に参加いただきました。さらにIVSSTをいすゞ北海道試験場のある北海道勇払郡むかわ町の小学校3校に実施。遠隔地の生徒にも自動車産業の学習機会を提供しました。今後はさらなる授業内容と運営の改善を行い、より充実したカリキュラムを多くの生徒に提供いたします。

※ IVSST : Isuzu Virtual Social Studies Tour

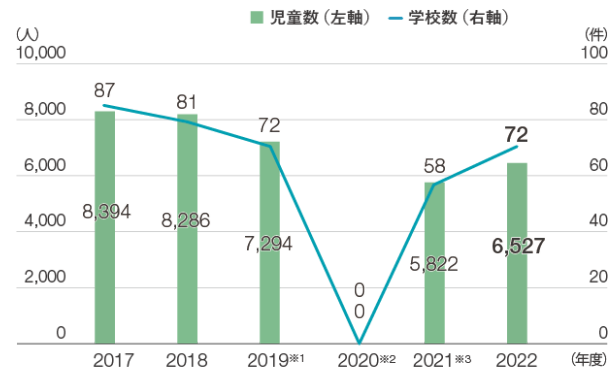


小学校のIVSST授業風景



プラザのIVSST実施の様子

社会科見学の実績



※1 コロナ禍により11校969人のキャンセルあり

※2 コロナ禍により受入れ中止

※3 IVSST

自動車整備士養成学校における教育支援活動

2008年11月より、いすゞの創立70周年を機に立ち上げた独自の社会貢献活動プロジェクトの一環として、フィリピン・レイテ島タクロバン市のフィリピン労働雇用省技術教育技能開発庁 (TESDA※1) において、経済的に恵まれない若者を対象に、自動車整備士養成学校への教育支援活動を行っています。この活動は、単なる資金援助にとどまらず、自社のノウハウを活かした支援を行っています。具体的には、日本の指導員を現地に派遣し、「いすゞ塾」という技術教育支援を行っています。それによって同校では、電気、トランスミッション、エンジン、ブレーキなどに関する高い整備技能に加えて、5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 活動の考え方も身に付くことから、卒業生は就職先で高い評価を受けています。2022年4月には21期生、11月には22期生の入学式、在校生の終業式が行われ、その模様をオンラインで日本やフィリピン各地へライブ配信しました。本校卒業生は351名 (2023年3月現在) になり、多くがフィリピン国内販売会社や海外で活躍しています。日本で就職する卒業生も増えており、2019年から2023年3月現在までに9名の卒業生がいすゞおよび国内の販売会社で活躍しています。技能面における評価も高く、I-1GP※2では、過去2回の優勝を果たすなど、同校卒業生は高い技術力と活動の考え方を身に付けています。2023年11月18日学校は創立15周年を迎えます。

※1 TESDA : Technical Education and Skills Development Authority

※2 I-1GP : いすゞワールドサービス技能コンテスト。世界各国/地域から優秀なサービススタッフ・エンジニアが集い、技術力と知識を競い合うことで各国のサービスレベルを向上させ、いつでもどこでもいすゞのお客様に最高の満足を提供できるようにすることを目的とした、国別/地域別対抗戦で世界No.1を競う技能コンテスト



22期生入学式典



日本語課外授業



車両分解作業の実習

社会貢献

国内外における競技大会での活躍

- I-1GP上位入賞（2015年度CV優勝、2016年度CV3位/LC2位、2018年度CV優勝）
- 2017年度TESDAフィリピン全国競技大会第1位、2018年度アセアン大会出場いすゞグループでの活躍
- 2018年度日本（いすゞ自動車首都圏・MSTC）で3名の卒業生を受け入れ実施、いすゞグループで活躍中
- 2019年度日本（いすゞ自動車首都圏・いすゞ自動車近畿）で6名の卒業生を受け入れ実施、いすゞグループでさらに活躍
- 2020年I-1グランプリ e-competition 3位入賞（選手2名TESDA卒業生）

フィリピンにおける同プロジェクトの評価

- 2008年度TESDA本局、大統領府より表彰
- 2009年度TESDA全国レベル最高賞 KABALIKAT賞受賞 マラカニアン宮殿にてアロヨ大統領より表彰
- 2017年度SPMJ（Society of Philippine Motoring Journalists）CSR教育カテゴリー金賞受賞



2020年I-1GP e-competition 3位入賞



日本国内のいすゞ販売会社で働く卒業生

卒業生の就労状況（2023年4月時点）



■ フィリピン国内いすゞグループ	53%
■ フィリピン国内他メーカーなど	21%
■ 海外他メーカーなど	10%
■ その他	16%

「南極子ども講話会」を開催

いすゞは1956年の第一次から66年間、南極観測隊への従業員の派遣を続けています。いすゞ製のトラックやエンジンとともに南極観測を支えてきました。社会に貢献するいすゞの南極活動を通じて、子どもたちがさまざまなことに興味を持ち、将来の職業についても考えるきっかけづくりができればという想いから、南極観測隊OBが講師となり「南極子ども講話会」を開催しました。2022年度はいすゞプラザ・辻堂海浜公園にて4回開催。約200名が参加し、南極という過酷な環境下でいすゞのトラック、雪上車、発電用エンジンの稼働を守り、観測を支え続ける仕事と、南極の自然や動物たちの現状を通して環境保全の大切さも紹介しました。



南極子ども講話会の様子

「いすゞものづくり体験ワークショップ」を開催

ものづくりの楽しさと大切さを体験してもらうため、従業員がプログラムを考案した「いすゞものづくり体験ワークショップ」を2014年度から、いすゞプラザや藤沢市の辻堂海浜公園、湘南台文化センターで開催しています。今年度はデザインの仕事やその役割を体験する「デザイン教室」を12回開催し226名が参加しました。またいすゞの技術を活かした「ものづくり体験鑄物教室」は4回開催し64名が参加、子どもたちの環境意識の向上を目的にした「燃料電池教室」には40名が参加しました。その他、いすゞの藤沢・栃木工場より採取した自然素材を利用した「環境クリスマスリース教室」に40名が参加しました。今後もいすゞが得意とするものづくりや環境への取り組みをワークショップとして開催していきます。



いすゞプラザでの鑄物教室

社会貢献

小学校で「DeuSEL®バスプロジェクト」の出張授業を実施

2022年11月18日、川崎市立坂戸小学校の小学5年生に向け、バスの常時換気・乗下車時の手指消毒など感染対策も徹底しながらデュゼル出張授業を行いました。トラック、バスの社会への役割を通じて、未来の燃料や地球環境の大切さを子どもたちに知ってもらうことを目的に8年前から開催しており、毎回好評を得ています。いすゞとユグレナ社の担当者がデュゼルについて説明した後、デュゼルバスの試乗とミドリムシの観察を体験していただきます。質疑応答の時間には、子どもならではの素直で核心を突く質問が多く寄せられました。

> デュゼル



坂戸小学校でのデュゼル出張授業

お子様向け情報コンテンツ「いすゞタウン」

いすゞサイト内に、お子様向け情報コンテンツ「いすゞタウン」を2021年に開設しました。サイト全体を「いすゞタウン」というまちに見立てて、子どもたちが日々の暮らしの中で出会うさまざまな「はこぶ」にスポットを当てました。動画やイラストを多く取り入れ「あそび」と「まなび」を通じて、私たちの生活に欠かせない物流やそれを支えるものづくりを楽しく学べる、お子様向けのコンテンツです。未来を担う子どもたちに、いすゞとして何を伝えていくか丁寧に考えながらコンテンツを制作しています。



「いすゞお仕事紹介」を実施

子どもたちに「働くとは何か」を伝える活動として、2023年1月21日に品川区立品川学園で「いすゞお仕事紹介」を実施しました。この取り組みは品川区の「しながわドリームジョブ」※の一環として行われるもので、いすゞは2018年から実施しており、今回で5回目となりました。対象は中学1年生の生徒120名。1月12日の事前学習ではいすゞの概要を対面にて紹介し、お仕事紹介当日は海外営業、設計、製造で働く社員3名が講師となり対面授業を行いました。ものづくりや海外などさまざまな視点から生徒たちの興味を喚起し、仕事のやりがいや使命感について生の声を届けることで、働くことの大切さと魅力を伝えました。

※ 生徒がさまざまな分野で活躍する企業や地域の方々の話を通して職業に興味を持ち、自分の将来について考え、夢を実現させる方法を学ぶ授業



品川学園にてお仕事紹介

社会貢献

藤沢工場近隣の小学校2校で「神奈川フィル・オーケストラ・ファクトリー」を協賛

いすゞが協賛する、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「オーケストラ・ファクトリー※」が、10月6日には神奈川県藤沢市立俣野小学校にて、また10月7日には藤沢市立小糸小学校にて開催されました。この活動は今年で9年目となり、児童たちに音楽を通じた体験を提供することで、創造性と豊かな感性を育むことを目指しています。指揮者の堀氏より「オーケストラは車と同じ、どの部品（=楽器）が欠けても完成（=演奏）できない」と低学年にもわかりやすい説明をしていただきました。今後も、児童たちがものづくりの一端に触れる機会を提供していきます。

※ オーケストラ・ファクトリー：児童たちがオーケストラの生演奏を聴き、共演することを通じて、「大勢の人が心を一つにして力を合わせることで素晴らしい“もの”（=音楽）が創りだせること」を体験します。「工場でのものづくり」をイメージしてもらおうと狙いとしています



熱心に演奏を聴く児童

児童養護施設などにケーキを寄贈

いすゞは、クリスマスの時季に、地域の児童施設などにケーキの寄贈を行っています。2022年度は新本社移転先の横浜市をはじめ、大森地区、藤沢地区、栃木地区それぞれの幼稚園や保育園、児童養護施設などにクリスマスケーキなどを寄贈しました。この活動は、大森地区では1989年より、藤沢地区と栃木地区では2007年より行っています。



栃木市への寄贈式

富士山の森づくりに参加

いすゞは、世界文化遺産に指定されている富士山（2013年ユネスコ登録）北麓域の豊かな森林や生態系の回復を目指し、「富士山の森づくり」に参画しています。具体的には、2008年度より植林活動に参加し、公益財団法人オイスカや山梨県森林整備生産事業協同組合などに協力しています。

2022年度はコロナ禍の影響で、現地に赴いての植林活動が困難となったため、別の形による支援として「富士山の森づくり」の活動地域で採取された針葉樹「シラベ」（モミの仲間）から抽出されたアロマで作った除菌スプレー700本を栃木市へ寄贈し、栃木市保健福祉部から配布していただきました。コロナ禍でも継続してお仕事をされている高齢者施設の職員の方々へ少しでも感謝の気持ちとエール、香りの癒やしを感じてもらえるようにとの想いで実施したこの取り組みに対し、栃木市長より感謝状が贈られました。

【配布先】高齢者施設およびデイサービスなどの職員

古本で！「子供の森」計画サポートプロジェクトに参加

「子供の森」計画は、公益財団法人オイスカが進めているプロジェクトで、子どもたち自身の手で学校や地域に木を植え、育てるといった活動への支援を通して、「緑を大切にしたい気持ち」や「自然を愛する心」を育むことを目的としています。いすゞは、このプロジェクトのサポートを2015年から開始し、2022年度より横浜新本社ビルに入居のいすゞグループ会社も参加を開始しました。従業員が寄付した古本などを販売し、その買い取り額を「子供の森」計画への寄付金としています。

買取可能な冊数

(冊)

	2020年度	2021年度	2022年度
本社	160	57	179
藤沢	76	244	29
栃木	0	0	0
合計	236	301	208

TABLE FOR TWO (TFT) プログラム

従業員が健康的な食生活を送りながら社会貢献にも参加できるように、社内の食堂と喫茶室で「TABLE FOR TWO プログラム」（以下、TFT）を導入しています。これは、従業員が「ヘルシーメニュー」、「健康飲料」、「募金箱」を利用すると、自動的に10円が寄付され、そこにいすゞが同額を上乘せし、1人1回の利用当たり「合計20円」が寄付されるプログラムです。寄付金は、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalを通じて、開発途上国で飢餓や貧困に苦しむ子どもたちの学校給食費として活用されています。

給食提供数（換算値）

(食)

	2020年度	2021年度	2022年度
本社	7,011	7,529	32,234
藤沢	2,411	3,722	3,736
栃木	1,786	4,042	2,344
合計	11,208	15,293	38,314

※ TFTの支援国は、ウガンダ、エチオピア、タンザニア、ルワンダ、フィリピンの5カ国で、いずれもいすゞが事業を展開している国

社会貢献

フードドライブ

いすゞは、賞味期限が近づいた食品や食材を従業員が家庭から持ち寄り、認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパンを通じて地域の福祉団体や施設に寄付を行う、「フードドライブ」の取り組みを展開し、食品ロスを削減するとともに、社会福祉の向上にもつなげています。

回収実績

	2020年度	2021年度	2022年度
参加人数(人)	199	193	277
重量(kg)	200.2	218.1	232.0

社会貢献支出額

2022年度社会貢献支出額：7.9億円

	社会貢献活動費	現物寄付	寄付金
金額(百万円)	702	4	85

トルコ地震被災者への人道支援

2023年2月6日に発生したトルコ南部の地震により、家屋倒壊など甚大な被害が発生したことを受け、被災された方々に人道的な見地から日本赤十字社を通じて義援金として寄付しました。

グループ企業の社会貢献活動

Isuzu East Africaでの取り組み

Isuzu East Africa(以下、IEA)では、交通安全・教育・環境を「CSR 3本の柱」として社会貢献活動に取り組んでいます。活動を通して政府・地域との繋がりが生まれ、いすゞブランドが支持される要因にもなっています。

「教育」への活動

ケニアでは初等学校から中等学校への進学率は約50%に留まっています。その原因は主に資金不足で、多くの若者が学びの機会を失っています。そのため、IEAは恵まれない背景を持つ優秀な学生が、中等教育を受けられるよう支援しています。



毎年、困窮などの恵まれない学生へ奨学金を提供し、2005年以来、約70人の学生が地元大学に進学